日本語學研究　第36輯（2013. 3. 20. pp.101～115）

親友同士の不満成立と不満表明の日韓比較*

-場面差を中心に-

盧姓鉉**

〈 要 旨 〉

本研究では、親友同士の不快度、不満成立、不満表明の手段、不満表明のストラテジー及び行動意識を日韓の場面差に注目して考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

⑴ 不快度と不満成立の割合を場面別にみると、〈本〉〈ペン〉〈部屋〉の場面では韓国に比べ日本の方が高いが、〈飲み物〉の場面では日本に比べ韓国の方が高い。

⑵ 不満表明の手段を見ると、日韓ともに不満を感じた場合は言葉で表現するのが一般的であるが、不満表明しないことも少なくない。

⑶ 4つの場面の不満表明のストラテジーは、日本に比べ韓国の方がバリエーションに富んでいる。〈本〉〈飲み物〉〈ペン〉の場面では韓国より日本の方が「相手の気分を害しないように」気を使うが、それでも実際は言いづらいという傾向がある。〈部屋〉の場面では日韓ともに「不満事項(行動)を改善するように」気を使い[改善要求]の言い方をすることが多い。

⑷ [非難]は、どの場面でも日本より韓国の方でその使用割合が高く、言いづらくないという傾向が見られ、親友同士の許容範囲における日韓の相違が窺われる。

このような研究成果は日韓両国人の相互理解や異文化コミュニケーション教育などに有効であろう。

論 文 分 野 ：社会言語学
キーワード：不満成立、不満表明、不快度、ストラテジー

1. はじめに

韓国語と日本語は語順、助詞、敬語などの言語体系の面で類似したところが少なくない。だが、韓国と日本はそれぞれ異なった言語社会文化を背景にしているため、自国の文化のフレームに合わせて行動したり相手国の行動を解釈したりすることによってミスコミュニケーションが生じることも多々ある。このように、言語社会文化的な背景を異にする日韓両国人が円滑なコミュニケーションを図るためには、日韓コミュニケーション行動の特徴及び相違点やその原因を把握する必要がある。

www.kci.go.kr

* "This work was supported by the National Research Foundation of Korea Grant funded by the Korean Government (NRF-2011-327-A00523)"
** 高麗大学校 言語情報研究所 研究教授、社会言語学･日本語教育 専攻

そこで、本研究では親友同士の不満成立と不満表明の特徴を日韓の場面差に注目して比較することによって、日韓コミュニケーション行動の特徴及び相違やその原因を明らかにし、日韓両国人の相互理解に役立つものとしたい。

2. 先行研究及び本研究の位置づけ

「不満表明」とは、ある種の行動期待や当然とみなされる文化規範に反するような好ましくない状況に置かれた際に、或は相手から不利益を受けた際に、そのことに対する否定的な評価を相手に伝えることであり[1)]、Olshtain & Weinbach(1985)、初鹿野他(1996)などから研究が始まった。

Olshtain & Weinbach(1985)ではヒブリ語母語話者とヒブリ語学習者の不満表明を力(power)、心的距離(distance)、義務度(obligation)によるストラテジーの使用を中心に考察した。初鹿野他(1996)では日本語母語話者と日本語学習者の不満表明ストラテジー及びその組み合わせ方を比較考察した。これらの研究は不満表明に関する先駆的な研究として意義があるが、学習者グループの母語(英語、中国語、インドネシア語など)や年齢などが多様であるため、学習者グループと母語話者グループとの違いの原因を究明するまでには至らなかった。

2000年代に入ってから日韓の不満表明に関する調査研究が増えたが、朴承圓(2000)、미즈시마(2002)、李善姫(2004)などのように韓国人日本語学習者や日本人韓国語学習者の中間言語学的な研究が多い。日本人と韓国人との不満表明に注目した対照研究は、鄭賢熙(2005)、李善姫(2006)、宋連姫(2008)、国生(2009)、혼다 토모쿠니·김인규(2009)、拙稿(2012)ぐらいである。

鄭賢熙(2005)は同年代の初対面の間でのもめごとを分析した結果、「日本人はもめごとについて否定的なイメージを持っており、なるべく関わらない方がいいという意識が強いが、韓国人はもめごとによって話し合いが始まり、お互い納得できる解決案が見出せるという肯定的な意識を持つ人が多い」という日韓の意識の差を明らかにしている。この他、日本人の場合は「もめたくないから」「知らない人だから」「となりの人だから」などのことで、直接言わずに第3者に不満表明するが、韓国人は他人であっても第3者に言われるより直接言われることを好んでおり、他人に関する認識に日韓の相違のあることを指摘している。李善姫(2006)では、韓国に比べ日本は間接的なストラテジーを使う傾向があり、不満表明の切り出しや終結部の言語表現における日韓の相違を明らかにしている。宋蓮姫(2008)は談話完成テスト[2)]を中心とした先行研究とは異なって日韓のドラマシナリオをデータにしている点では特筆すべきであるが、分析において親疎関係の統制が行われていないなどの問題を抱えている。国生(2009)では、公共の場面と私的な場面、一人でいる場合と親しい人と一緒にいる場合、一緒にいる人との上下関係などを考慮して調査·分析し、公共の場面では日韓ともに積極的なストラテジーを使っていることが明らかになった。혼다·김인규(2009)では、韓国人が日本人に比べて多様なストラテジーを用いてお

1) 不満表明の定義は初鹿野他(1996)、藤森(1997)、山岡他(2010)などを参考にして拙稿(2012)に示したものである。「不満表明」の用語の概念などについての詳しくは拙稿(2012)を参照されたい。

2) 談話完成テスト(Discourse Completion Test：以下、DCT)とは、場面を設定し、それぞれの場面でどのように言うかを被験者に書き込んでもらう調査方法である。

www.kci.go.kr

り、場面によって在韓日本人は日本より韓国に近い傾向を見せていた。

このような先行研究は量的にも質的にも成果を挙げているが、次のような問題点及び研究課題をも孕んでいる。

(a) 先行研究では調査方法がDCTに偏っているが、これからの研究においてはロールプレイやインタビュー調査などによって考察データの多様性を確保する必要がある。
(b) 先行研究では考察の対象がストラテジーに偏っているが、これからの研究においては場面の捉え方や行動意識などにも考察の範囲を広げる必要がある。
(c) 先行研究では「異なる事柄に対する不満表明の相違を、親疎上下関係によるものと解釈していいのか」「親疎上下関係などの社会的な要因が統制されていないのに場面差として解釈していいのか」などの疑問が残るが、これからの研究においては不満表明において親疎上下関係や不満事項などの要因を統制した上での調査と分析が必要である。

この三つの問題点及び課題を踏まえ、筆者は2011年~2012年に「日韓の不満表明及びその応答に関する調査」を行った[3)]。この調査の中で〈親友に対する不満表明〉のデータをもって、本研究では親友同士の不満表明をストラテジーだけではなく場面差や行動意識にも注目して分析考察したい。このような研究成果はストラテジーを中心とした先行研究の成果をバックアップするとともに、日韓言語行動の研究領域の更なる発展にも役立つものと考えられる。

3. 考察データ

全体の調査概要についての詳しくは拙稿(2012)に述べてあるため、本稿では考察データと直接関わりのある部分を中心に簡単に示すことを断っておく。まず、本調査では「日韓の不満表明及びその応答に関する調査」の中で〈親友に対する不満表明〉に関して日本人と韓国人を対象にDCT(所要時間:約20分)を行った。次に、DCTを中心とした先行研究の限界を乗り越え、データの多様性を図るため、グループ式面接調査(所要時間:一グループ当り約40分)を行った。質的調査としてグループ式の面接調査を行った理由は、国立国語研究所(2006:15)にも述べられているように、一対一の面接調査に比べて次のような利点が期待されるからである。参加者が知り合いと一緒にいることでリラックスすることができ、より自然な回答が得られ、他者の回答が刺激となってより多様な回答が引き出されるほか、調査時間が短縮できる点でも今回の調査に適していると考えた。今回のグループ式面接調査は、普段付き合いのある者同士6名を一つのグループにして、調査者が投げかけた質問に対してお互いに話し合う形で行った。

調査時期は2011年10月から2012年2月、調査地域はソウルと東京近辺であり、被験者は日韓の大学生で、年齢は20代、本稿で考察の対象とする被験者数は以下のとおりである。

www.kci.go.kr

3) 拙稿(2012)ではこの調査の中で〈親疎上下関係による不満表明〉のデータをもって、親疎上下関係による不満表明を日韓の行動主体の意識に注目して分析考察した。先行研究及び本調査の位置づけについての詳しくは拙稿(2012)を参照されたい。

【表1】考察データの被験者数 (単位：人)

	韓国人	日本人	合計
DCT	156	162	318
グループ式の面接調査	30	30	60

本稿では日本人と韓国人を対象にした〈親友に対する不満表明〉に関わるDCTの回答を中心に分析し、その結果をグループ式面接調査で得られたコメントを参考にして考察する。【表2】と【表3】に、本稿で分析の対象とするDCTの4つの場面と設問例を示す。

【表2】考察データの場面[4)]

状況 場面	状況説明
〈本〉	あなたは自分の大切な本をBさんに貸した。実は、大切な本なのであまり貸したくなかったが、Bさんがどうしてもというので貸した。数日後、Bさんにその本を返してもらった。Bさんと話しながら何気なくその本を開いてみたところ、飲み物でちょっと汚れているところがあることに気づいた。
〈飲み物〉	あなたは、今、自動販売機の前でBさんと一緒に他の友だちを待っている。その時、Bさんが自動販売機で自分のジュースだけを買って、飲み始める。
〈ペン〉	あなたは今Bさんと図書館にいる。Bさんが何の断りもなく、机の上に置いてあったあなたの筆箱からペンを取り出して使う。
〈部屋〉	Bさんをあなたの家に招待した。しかし、あなたが案内していない部屋にBさんが何の断りもなく勝手に入る。

www.kci.go.kr

4) 本調査の場面設定においては、大塚(2004)を参考にした。

【表3】設問例

〈部屋〉の場面で Bさんが 親しい友だちである場合

(1) あなたの気持はどうですか。

① 全然不快ではない ② 不快ではない ③ なんとも思わない ④ 少し不快だ ⑤ とても不快だ

↓ ↓

((1)で ④か ⑤を選択した方のみ)その場面で不快だったら親しい友だちに対するあなたの行動は?

① 言葉で不満を言う。

② 言葉では言わないが、態度(表情など)で示す。

③ (不快ではあるが) 何も言わないし、態度でも示さない。

(2) その場面で親しい友だちに言葉で不満を表明するとしたら、どのように言いますか。

( )

↓

☞ あなたが上記のことを言う時、一番気にすることに○をつけて下さい。

① 不満事項(行動)を改善するように

② 不快な気持や状況が相手に伝わるように

③ 自分の印象が悪くならないように

④ 相手の気分を害しないように

⑤ 相手から反感をかわないように

⑥ その他(簡単に記入してください:)

↓

実際、上記のことは言いづらいですか?

①言いづらい ②言いづらくない ③言いやすい

【表2】に示した4つの場面について【表3】の質問を設け、それぞれに答えてもらった。これを本研究の主な考察データとして分析し、その結果をグループ式面接調査で得られたコメントを参考にして考察することによって、親友同士の不満表明における日韓の特徴及び相違点を明らかにしたい。

4. 分析と考察

本章ではDCT調査の中で親友同士の不満表明について設問した4つの場面(〈本〉、〈飲み物〉、〈ペン〉、〈部屋〉)の結果を分析考察する。主に、①不快度、②不満成立の可否と不満表明の手段、③不満表現の選択に見られるストラテジーと行動意識という三つの側面における日韓の違いを場面差に注目して考察していきたい。考察に当たっては、グループ式面接調査で得られたコメントを「 」で示して参考にする。なお、データの集計や分析には SPSS (PASW Statistics)18.0[5]を用いる。

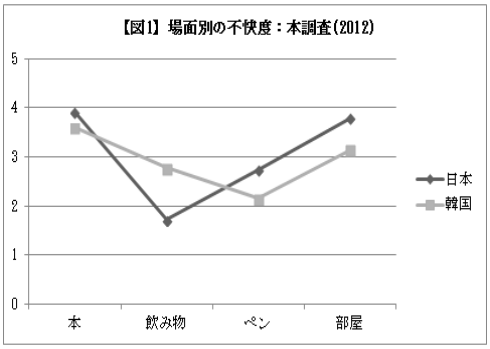
www.kci.go.kr

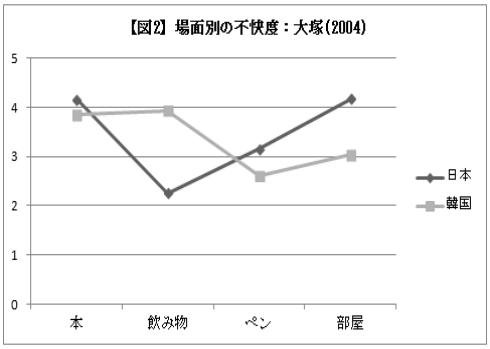
5) SPSS(PASW Statistics)18.0はデータ分析のための総合システムである。SPSSでは、殆どのファイル形式のデー

4.1. 不快度

不満表明は会話参加者が感じる不快度と深く関わっている。だが、同一の状況下であっても日本人と韓国人の感じる不快度には違いがあり得るし、このような不快度の違いによって日本人と韓国人の不満表明が異なってくる可能性も考えられる。

そこで、本稿では不満表明の考察に先立って、場面別の日本人と韓国人との不快度の違いを考察することにする。不快度は、各場面での気持を尋ねた質問の回答を「全然不快ではない→1点」「不快ではない→2点」「何とも思わない→3点」「少し不快だ→4点」「とても不快だ→5点」に数値化して、場面ごとにその平均値を計算した。これは約10年前の調査である大塚(2004)と本調査の結果を比較し日韓の不快度の変化をも把握するため、大塚(2004)での不快度の計算方法をそのまま取り入れたのである。本調査(2012)と大塚(2004)における日韓の場面別の不快度の平均値を【図1】と【図2】に示す。





まず、【図1】の本調査の場面別の不快度の順位を見ると、韓国では「本〉部屋〉**飲み物〉ペン**」で、日本では「本〉部屋〉**ペン〉飲み物**」の傾向が見られる。すなわち、〈飲み物〉の場面と〈ペン〉の場面の不快度の順位に日韓の相違が見られる。また、〈本〉〈ペン〉〈部屋〉の場面の不快度は韓国より日本の方が高いが、〈飲み物〉の場面の不快度は日本より韓国の方が高い。このような結果は大塚(2004)とも類似したものである。大塚(2004)では、韓国人より日本人の方が不快に感じる〈本〉〈ペン〉〈部屋〉の場面について「日本人の立場から見て他人の領域に踏み込む行為」と解釈する一方、日本人より韓国人の方が不快に感じる〈飲み物〉の場面について「韓国人の立場から見て人間関係の希薄さを感じさせる行為」と解釈している。

【図1】の本調査の結果と【図2】の大塚(2004)の結果と比べてみると、4つの場面で大塚(2004)より本調査の不快度の方が減っている。特に、〈飲み物〉の場面では、韓国の不快度が大幅減少することによって不快度の日韓差も狭まっている。すなわち、「日本人の立場から見て他人の領域を踏み込む行為」について不快に感じる傾向は日韓ともに少し減少したが、大きな変化は見られない。一方、〈飲み物〉の場面について不快に感じる傾向は、特に韓国の方で大幅減少し、この傾向から「韓国人の立場から見て人

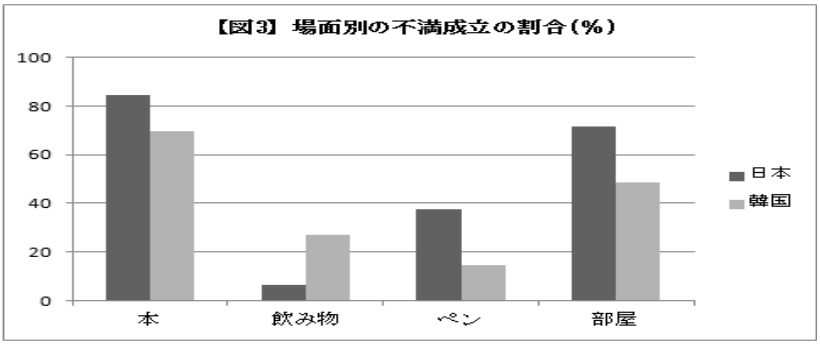
タをサポートし、取り込んだデータを使用して、グループ化されたレポート及び図表を作成したり、分布、トレンド、記述統計、及び複雑な統計の分析のプロットを作成することができる。本稿ではこのSPSS(PASW Statistics)18.0を用いてデータの分布、トレンド、記述統計を中心に考察する。

www.kci.go.kr

間関係の希薄さを感じさせる行為」についての韓国人の意識が大きく変化し日韓差も狭まったと思われる。しかし、今回の調査で「韓国人の立場から見て人間関係の希薄さを感じさせる行為」を扱った場面は〈飲み物〉の場面一つしかないので、この韓国人の意識の変化については今のところ断言できない。「韓国人の立場から見て人間関係の希薄さを感じさせる行為」についての韓国人の意識や日韓差の変化はとても重要であるため、追加調査や分析が求められるが、これは今後の課題としたい。

4.2. 不満成立と不満表明の手段

まず、各場面において不満を感じるかどうかという不満成立の日韓の相違を見てみる。不満成立の割合は、各場面での気持を問う質問に対して「④少し不快だ」「⑤とても不快だ」と答えたものを集計し場面ごとに%に計算し、その結果を【図3】に示す。



【図3】を中心に場面別の不満成立の割合を見ると、〈本〉の場面と〈部屋〉の場面では日韓ともに不満成立が高いが、〈飲み物〉の場面と〈ペン〉の場面では不満成立の割合が40%以下である。〈飲み物〉の場面で日本は殆ど不満成立がしないと見ていいと思われる。グループ式の面接調査でも〈飲み物〉の場面について不快であるかどうかを聞いたところ、「J-1-2　なにが?」「J-3-3　なに言っているのか、わかんない」「J-4-1ぜんぜん」など、なぜこういう質問をするのかがわからないという反応が多かった。実際、DCT調査の後、ある学生から「韓国でこれ(〈飲み物〉の場面)はだめですか。」と聞かれ、「韓国では寂しいと思われるかも」と答えたら「へえ?」と首を傾げていた。〈飲み物〉の場面は大塚(2004)にも指摘されているように韓国人なら人間関係の希薄さが感じられ、寂しいと思われる場面であり、予備調査やグループ式面接調査でも「K-2-1　대박」「K-4-3　나는?」「K-5-2　혼자　먹어?」など否定的な反応がかなりあった。しかし、【図3】に示したDCTの結果からすると、〈飲み物〉の場面で韓国の不快成立の割合も30%弱で日本よりは高いが、予想よりは低い数値であった。この原因については今のところ断言できないが、〈飲み物〉の場面での韓国人の気持は「불쾌하다(不快である)」という言葉では表しきれない、すなわち、DCT調査票の限界によるものかもしれない。これについては、現在、追加調査を予定しており、稿を改めて論じたい。

次に、不満を感じた時、我々は不満を言葉で表現する場合もあれば態度で表現する場合もあるが、不満を表現しないこともある。【表4】と【表5】は、不満を①言葉で表明する場合、②態度で表明する場

www.kci.go.kr

合、③表明しない場合、それぞれの割合を場面別に示したものである。

【表4】不満表明の可否と手段：日本側　件(%)

		本	飲み物	ペン	部屋
不満を	言葉で表明	84(63.6)	3(30.0)	34(57.6)	91(81.3)
	態度で表明	7(5.3)	-	3(5.1)	11(9.8)
	表明しない	41(31.1)	7(70.0)	22(37.3)	10(8.9)
合計		132(100)	10(100)	59(100)	112(100)

【表5】不満表明の可否と手段：韓国側　件(%)

		本	飲み物	ペン	部屋
不満を	言葉で表明	65(58.6)	31(70.5)	13(54.2)	61(77.2)
	態度で表明	8(7.2)	5(11.4)	3(12.5)	5(6.3)
	表明しない	38(34.2)	8(18.2)	8(33.3)	13(16.5)
合計		111(100)	44(100)	24(100)	79(100)

まず、【表4】の〈飲み物〉の場面は、不満成立が10件に過ぎないだけでなく、そのなかの7件は不満を表明しないとことから、不満表明の可否と手段の考察には適していないと思われる。これ以外の場面を中心に【表4】と【表5】の不満表明の可否と手段を見ると、〈本〉の場面と〈ペン〉の場面では不満を感じても表現しないことが少なくないが、全体的には日韓ともに不満を感じた場合言葉で表現するのがより優先されると言えよう。したがって、不満表明のメカニズムを解明するためには、不満を言葉で表現する時、日本と韓国ではどのように言うか、この不満表現を考察する必要があると思われる。そこで、4.3.では各場面で実際使われた不満表現をストラテジーと行動意識の側面から考察してみることにする。

4.3. 不満表現に見られる不満表明ストラテジーと行動意識

DCT調査で被験者に直接書いてもらった不満表明の言語表現は、初鹿野他(1996)、朴承圓(2000)、李善姫(2006)、国生(2009)などを参考にし、不満表明ストラテジーの側面から分析した。本調査で得られた不満表明ストラテジーとその発話例を【表6】に示す。

【表6】不満表明ストラテジー

ストラテジー	日本側の発話例	韓国側の発話例
[注意喚起]	おい	잠시만
[説明要求]	これなに?	펜 없냐?
[許し]	大丈夫よ	흘린 거 가지고 뭐라 하지는 않을거야
[示唆･皮肉]	お前の家かよ。	책 읽다 졸았냐?
[状況提示]	少し汚れているよ。	이거 봐. 흘렸잖아
[代償要求]	あげるから新しいの買って。	밥 사!
[警告]	お前ちょっと注意しろ。	다음엔 이러면 안 빌려준다.
[改善要求]	何か一言言ってよ。	거기는 들어가지마.
[非難]	なに勝手に使ってるの。	야! 말도 없이 쓰냐?
その他	まじか	어지럽히지만 마라.

www.kci.go.kr

【表6】の不満表明ストラテジーで本調査の回答から得られた不満表現を分析した結果、場面別にそれぞれ異なったストラテジーを用いていることが確認できた。ストラテジーの側面から日韓の特徴及び相違が窺われる[説明要求]、[状況提示]、[改善要求]、[非難]を中心に場面別の日韓のストラテジーの割合を【表7】と【表8】に示す。

【表7】場面別ストラテジー：日本側　　件(%)

	本	飲み物	ペン	部屋
説明要求	31(20.3)	16(15.9)	11(9.2)	3(2.3)
状況提示	70(45.8)	11(10.9)	4(3.3)	-
改善要求	9(5.9)	46(45.5)	73(60.8)	122(93.1)
非難	2(1.3)	12(11.9)	18(15.0)	1(0.8)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
合計	153(100)	101(100)	120(100)	131(100)

【表8】場面別ストラテジー：韓国側　　件(%)

	本	飲み物	ペン	部屋
説明要求	88(44.0)	47(28.1)	22(20.4)	23(16.4)
状況提示	17(8.5)	1(0.6)	1(0.9)	1(0.7)
改善要求	4(2.0)	54(32.3)	35(32.4)	75(53.6)
非難	31(15.5)	50(29.9)	25(23.1)	30(21.4)
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
合計	200(100)	167(100)	108(100)	140(100)

□ 0～15.0%　□ 15.1%～30.0%　■ 30.1%～50.0%　■ 50.1%以上

〈本〉の場面は日韓ともに不快度及び不満成立が高く、その割合は韓国より日本の方が高い。その場面で日本は「ここ汚れているんだけど」のような[状況提示]が45.8%で一番多く使われ、「なんかこぼした?」のような[説明要求]も20.3%の使用割合を占めている。一方、韓国は「이게　뭐야?」のような[説明要求]が44.0%で一番多く使われており、「이거 아끼는 책인데 음료수 흘리면 어떡하냐?」のような[非難]も15.5%の使用割合を見せている。この不満表明の選択における行動意識[6]を見てみると、日韓の相違が窺われる。日本は「相手の気分を害しないように(36.9%)」「不快な気持や状況が相手に伝わるように(32.2%)」気を使って不満表明をするが、それでも実際言いづらいという意見が37.3%を占めている。しかし、韓国は「不快な気持や状況が相手に伝わるように(45.6%)」「相手の気分を害しないように(25.3%)」気を使って不満表明をしており、実際言いづらいという意見は14.0%に過ぎない。つまり、〈本〉の場面では韓国人に比べ日本人の方が不快に感じており、相手の気分を害しないように気を使って、[状況提示]などの間接的な不満表明でもやはり言いづらいという意識が強いと言えよう。

〈飲み物〉の場面は日韓ともに不快度及び不満成立が低いが、その割合は日本より韓国の方が高い。その場面で日本は「一口ちょうだい」のような[改善要求]が45.5%で一番多く使われ、「おいしい?」のような[説明要求]も15.9%の使用割合を占めている。だが、日本の場合、〈飲み物〉の場面の不満成立の割合

6) 分析結果の詳しくは、末尾の【付録1】【付録2】を参照。

www.kci.go.kr

がとても低いだけあって、当該場面での不満表現を書かないことも多い。一方、韓国は「나도 줘」のような[改善要求]が32.3%、「너만 먹냐? 치사하게」のような[非難]が29.9%、「내꺼는?」のような[説明要求]が28.1%で、[改善要求][非難][説明要求]という三つのストラテジーがそれぞれ約30%の使用割合を見せている。この不満表明の選択における行動意識[7]を見てみると、日韓の相違が窺われる。日本は「相手の気分を害しないように(43.8%)」気を使って不満表明をするが、それでも実際言いづらいという意見が25.7%をも占めている。しかし、韓国は「不快な気持や状況が相手に伝わるように(25.9%)」「相手の気分を害しないように(24.5%)」気を使って不満表明をしており、実際言いづらいという意見は7.9%に過ぎず、かえって「言いやすい」という意見が37.9%をも占めている。つまり、〈飲み物〉の場面では日本人に比べ韓国人の方が不快に感じ、「不快な気持や状況が相手に伝わるように」そして「相手の気分を害しないように」気を使って[改善要求][非難][説明要求]の言い方を気楽に言うと思われる。しかし、日本は相手の気分を害しないように気を使い、不満を表明するとしたら[改善要求]の言い方をするが、実際は言いづらいと言えよう。

〈ペン〉の場面は、日韓ともに不快度及び不満成立が低いが、その割合は韓国より日本の方が高い。その場面で日本は「勝手に使わないで」のような[改善要求]が60.8%も使われており、その場面での代表的なストラテジーであると見られる。その他、「勝手に取っちゃだめでしょ」のような[非難]も15.0%の使用割合を占めている。一方、韓国は「말 좀 하고 써」のような[改善要求]が32.4%、「말도 없이 쓰냐?」のような[非難]が23.1%、「펜 없냐?」のような[説明要求]が20.4%で、[改善要求][非難][説明要求]という三つのストラテジーがそれぞれ多く使われ、〈飲み物〉の場面と類似した傾向が見られる。この不満表明の選択における行動意識[8]を見てみると、日韓ともに「相手の気分を害しないように(日本:33.6%, 韓国:22.5%)」「不満事項(行動)を改善するように(日本:28.1%, 韓国:20.8%)」気を使って不満表明をするが、実際言いやすいという意見は日本(23.4%)より韓国(36.2%)の方が高い。つまり、〈ペン〉の場面において言葉で不満を表明する際、日韓ともに「相手の気分を害しないように」「不満事項(行動)を改善するように」気を使うが、日本は[改善要求]の言い方を、韓国は[改善要求][非難][説明要求]の言い方を取っており、実際は日本人より韓国人の方が言いやすいと言えよう。

最後に、〈部屋〉の場面は、日韓ともに不快度及び不満成立が高く、その割合は韓国より日本の方が高い。その場面で日本は「勝手に入るなよ」のような[改善要求]が93.1%も使われ、典型的なストラテジーとして使われていることがわかる。一方、韓国は「들어가지마」のような[改善要求]が一番多く使われているが、その使用割合は53.6%で日本に比べ高くない。その代わり、「야 멋대로 들어가면 어떡해」のような[非難]が21.4%、「그 방은 왜?」のような[説明要求]も16.4%の使用率を見せている。この不満表明の選択における行動意識[9]を見てみると、日韓ともに「不満事項(行動)を改善するように(日本:35.9%, 韓国:40.8%)」「不快な気持や状況が相手に伝わるように(日本:30.3%, 韓国:23.2%)」気を使って不満表明をするが、実際言いやすいという意見は日本(20.0%)より韓国(37.5%)の方が高い。つまり、〈部屋〉の場面において言葉で不満を表明する際、日韓ともに「不満事項(行動)を改善するように」「不快な気持や状況が相手に伝わるように」気を使い、日本は[改善要求]が圧倒的に多いが、韓国は[改善要求]の他に[非難]

7) 分析結果の詳しくは、末尾の【付録1】【付録2】を参照。
8) 分析結果の詳しくは、末尾の【付録1】【付録2】を参照。
9) 分析結果の詳しくは、末尾の【付録1】【付録2】を参照。

www.kci.go.kr

や[説明要求]の言い方も少なくなく、日本人に比べ韓国人の方が実際は言いやすいと言えよう。

以上のように、不満表明に見られる不満表明ストラテジーや行動意識は、場面によって日韓の相違が見られた。場面ごとのストラテジーは日本より韓国の方がバリエーションに富んでおり、その選択においては〈本〉〈飲み物〉〈ペン〉の場面で韓国より日本の方が「相手の気分を害しないように」気を使うが、それでも実際は言いづらいという傾向があると言えよう。〈部屋〉の場面では日韓ともに「不満事項(行動)を改善するように」気を使い、[改善要求]の言い方をすることが多いと言えよう。この他、[非難]はどの場面でも日本より韓国の方でその使用割合が高く、言いづらくないという傾向が見られ、親友同士の許容範囲における日韓の相違が窺われた。

5. 終わりに

本研究では、親友同士の不快度、不満成立、不満表明の手段、不満表明のストラテジー及び行動意識を日韓の場面差に注目して考察した。その結果、以下のことが明らかになった。

(1) 不快度と不満成立の割合を場面別にみると、〈本〉〈ペン〉〈部屋〉の場面では韓国に比べ日本の方が高いが、〈飲み物〉の場面では日本に比べ韓国の方が高い。
(2) 不満表明の手段を見ると、日韓ともに不満を感じた場合は言葉で表現するのが一般的であるが、不満表明しないことも少なくない。
(3) 4つの場面の不満表明のストラテジーは、日本に比べ韓国の方がバリエーションに富んでいる。〈本〉〈飲み物〉〈ペン〉の場面では韓国より日本の方が「相手の気分を害しないように」気を使うが、それでも実際は言いづらいという傾向がある。〈部屋〉の場面では日韓ともに「不満事項(行動)を改善するように」気を使い、[改善要求]の言い方をすることが多い。
(4) [非難]は、どの場面でも日本より韓国の方でその使用割合が高く、言いづらくないという傾向が見られ、親友同士の許容範囲における日韓の相違が窺われる。

以上、親友同士の不満表明について日韓の場面差を中心に分析した結果、不満成立、不満表明の手段、不満表現の選択における日韓両国人のストラテジーや行動意識にはっきりした違いのあることが明らかとなった。このような研究成果は日韓両国人の相互理解と異文化コミュニケーション教育などに有効であると思われる。

今回の分析考察から、〈飲み物〉の場面のように韓国人の意識や日韓差の変化が予想される場面、すなわち、「韓国人の立場から見て人間関係の希薄さを感じさせる場面」についての追加調査と分析の必要性が浮彫りとなった。また、今回はDCTから得られたデータのみを考察の対象としたが、日韓コミュニケーション行動の相違をより明確にするためには自然談話を用いた分析考察も必要であろう。いずれも今後の課題としたい。

www.kci.go.kr

【参考文献】

미즈시마히로코(2002) 한국어불평화행의 중간언어적 연구, 이화여자대학교 교육대학원, 석사학위논문

송연희(2008) 不満表現と応答に関する日･韓対照研究、한국외국어대학교 석사학위논문

혼다 토모쿠니･김인규(2009)「한국어･일본어 불평 화행의 비교 문화 화용론적 연구」『국제어문』4, 국제어문학회 pp.5-44

李善姫(2004)「韓国人日本語学習者の〈不満表明〉について」『日本語教育』123日本語教育学会 pp.27-36

_____(2006)「日韓の＜不満表明＞に関する一考察 - 日本人学生と韓国人学生の比較を通して-」『社会言語科学』8-2 社会言語科学会 pp.53-64

生越直樹(2008)「相手所有物を使う際の言葉の有無に関する日韓比較」『対人行動の日韓対照研究 - 言語行動の基底にあるもの』ひつじ書房 pp.31-59

大塚徹(2004)「日本人と韓国人の不快感の比較」『専修国文』75 専修大学日本語日本文学会 pp.25-37

熊谷智子(2000)「言語行動分析の観点－「行動の仕方」を形づくる諸要素について－」『日本語科学』7 国立国語研究所 pp.95-112

国生和美(2009)「不満表明のストラテジー:日本語母語話者と韓国語母語話者の言語行動比較」カトリック大学校大学院修士学位論文

国立国語研究所(2006)『言語行動における「配慮」の諸相』くろしお出版 pp.15-17

鄭賢熙(2005)「日韓両言語における「不満表明」に関する一考察 - 異文化による「もめごと」での行動および言語表現を中心として-」『新潟大学国際センター紀要』1 pp.63-71

盧姓鉉(2009)『日韓コミュニケーション行動の対照研究 -貸し借り行動･意識に関する調査結果に基づいて-』東京大学大学院総合文化研究科博士論文

_____(2012)「親疎上下関係による不満表明に日韓比較-行動主体の意識に注目して-」『日本語学研究』34 韓国日本語学会 pp.59-73

朴承圓(2000)「＜不満表明表現＞使用に関する研究-日本語母語話者･韓国人日本語学習者･韓国語母語話者に比較-」『言語科学論集』4 東北大学文学部日本語学科 pp.51-62

_____(2007)「韓国人日本語学習者の不満表明行為の特徴-非言語行動を含む不満の表し方を中心に-」『Foreign Languages Education』14-3 한국외국어교육학회 pp.367-383

初鹿野阿れ･熊取谷哲夫･藤森弘子(1996)「不満表明ストラテジーの使用傾向―日本語母語話者と日本語学習者の比較―」『日本語教育』88 日本語教育学会 pp.128-139

洪珉杓(2006)「日韓両国人の言語行動の違い④ 不満表現のストラテジーに関する日韓比較」『日本語学』8月号 明治書院

_____(2007) 『日韓の言語文化の理解』風間書房

藤森弘子(1997)「不満表明ストラテジーの日英比較-談話完成テスト法の調査結果をもとに-」『言語との対話』英宝社 pp.243-257

www.kci.go.kr

Boxer,D(1993) Complaints as positive strategies:What the learner needs to know. Tesol Quarterly27 pp.277-299
Brown,P. and Levinson,S.(1987) Politeness: Some universals in language usage. Cambridge University Press.
Leech,J.N.(1983) Principles of Pragmatics. Longman. (池上嘉彦・河上誓作訳(1987)『語用論』紀伊国屋書店)
Obana,Yasuko(2000) Japanese as a language of uchi and soto. Understanding Japanese. Kuroshio pp.187-269
Olshtain,E. and Weinbach,L.(1985) Complaints: A Study of Speechact Behavior among Native and nonnative Speakers of Hebrew. The Pragmatic Perspective. John Benjamins publishing Company.
_____(1993) Interlanguage feathers of the speech act of complaining. In Kasper,G and Blum-Kulka,S(Eds), Interlanguage pragmatics. New York: Oxford University Press. pp.108-122

www.kci.go.kr

【付録1】

本調査では、各状況下で不満を表明するとしたら何を一番気にするかを尋ね、「①不満事項(行動)を改善するように」「②不快な気持や状況が相手に伝わるように」「③自分の印象が悪くならないように」「④相手の気分を害しないように」「⑤相手に反感をかわないように」「⑥その他」という６つの選択肢の中で選んでもらった。参考までに、その結果を【表9】と【表10】に示す。

【表9】不満表明の選択における行動意識：日本側　件(%)

	本	飲み物	ペン	部屋
不満事項(行動)を改善するように	2(1.3)	17(15.2)	36(28.1)	51(35.9)
不快な気持や状況が相手に伝わるように	48(32.2)	9(8.0)	23(18.0)	43(30.3)
自分の印象が悪くならないように	13(8.7)	14(12.5)	11(8.6)	8(5.6)
相手の気分を害しないように	55(36.9)	49(43.8)	43(33.6)	27(19.0)
相手に反感をかわないように	14(9.4)	7(6.2)	7(5.5)	7(4.9)
その他	17(11.4)	16(14.3)	8(6.3)	6(4.2)
合計	149(100)	112(100)	128(100)	142(100)

【表10】不満表明の選択における行動意識：韓国側　件(%)

	本	飲み物	ペン	部屋
不満事項(行動)を改善するように	3(1.9)	19(13.7)	25(20.8)	58(40.8)
不快な気持や状況が相手に伝わるように	72(45.6)	36(25.9)	18(15.0)	33(23.2)
自分の印象が悪くならないように	6(3.8)	7(5.0)	8(6.7)	2(1.4)
相手の気分を害しないように	40(25.3)	34(24.5)	27(22.5)	25(17.6)
相手に反感をかわないように	22(13.9)	11(7.9)	14(11.7)	12(8.5)
その他	15(9.5)	32(23.0)	28(23.3)	12(8.5)
合計	158(100)	139(100)	120(100)	142(100)

【付録2】

本調査では、各状況下で書いてもらった不満表明表現について、「実際言いづらいですか」と尋ね、「①言いづらい」「②言いづらくない」「③言いやすい」という3つの選択肢の中で選んでもらった。参考までに、その結果を【表11】に示す。

【表11】発話の難易度：日本側　件(%)

	本		飲み物		ペン		部屋	
	日本	韓国	日本	韓国	日本	韓国	日本	韓国
言いづらい	57(37.3)	22(14.0)	29(25.7)	11(7.9)	22(17.2)	13(10.2)	14(10.0)	8(5.6)
言いづらくない	80(52.3)	110(70.1)	66(58.4)	76(54.3)	76(59.4)	68(53.5)	98(70.0)	82(56.9)
言いやすい	16(10.5)	25(15.9)	18(15.9)	53(37.9)	30(23.4)	46(36.2)	28(20.0)	54(37.5)
合計	153(100)	(100)	113(100)	140(100)	128(100)	127(100)	140(100)	144(100)

www.kci.go.kr

〈 abstract 〉

A Study on discontents and complaint behaviour between close friends
-focusing on the difference of the situation between Korea and Japan-

This study examines the features of complaint behaviour between close friends in Korea and Japan from the perspective of unpleasantness, discontents, way to express displeasing behaviour, the strategy and consciousness of complaint behaviour. The results are as follows:

(1) Generally, Japan ranks higher than Korean in muttering the unpleasantness and discontents, but, depending on the situation, there are instances that Korea ranks higher than Japan.
(2) When examining the way to express displeasing behaviors, both countries usually express discontents by way of verbal language. However, both countries do not sometimes express the discontents under the unpleasant situation.
(3) When examining the strategy and consciousness of complaint behaviors, a huge difference between Japan and Korea is apparent.

This study result will contribute to the mutual understanding between Korea and Japan, Japanese language education to Koreans, smooth communications, and the deepening of the cultural exchange between both countries.

논문분야 : sociolinguistics
키 워 드 : discontents, complaint behavior, unpleasantness, strategy

▣ 노주현(盧姓鉉)
고려대학교 언어정보연구소 연구교수
chel99@hanmail.net

■ 投 稿 日 : 2012년 12월 20일
■ 審査開始 : 2013년 1월 21일
■ 審査完了 : 2013년 2월 12일
■ 掲載確定 : 2013년 2월 16일

www.kci.go.kr